

2020年度

事業報告

特定非営利活動法人 就労ネットうじ

ゆめハウス（就労継続支援A型・B型）/みっくすはあつ（就労継続支援B型）

## 2020年度事業報告と2021年度にむけて

### はじめに

ありがとうございます。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、当法人の計画をはじめ、利用者、ご家族、職員や関係者皆様の生活が大きく影響を受けました。感染予防の徹底や、生活様式の変更など、はじめての事に戸惑いと緊張が続き、皆様には大きな負担が生じた事と思います。そんな中、ゆめハウスではPCR検査の結果、陽性者と濃厚接触者が確認され対応に追われました。その間は保健所と連携をとりながら1週間ほど利用者の通所を控える事となりました。何より、働く事、暮らす事に多様な社会的な配慮が必要な人にとって、手探りのなか過ごした日々は不安そのものでした。

また、2020年度は賃金と工賃への影響も大きく、福祉関連団体や行政とも連携し、知恵を絞りながら協議を重ねてきました。その結果、京都府の就労継続支援B型事業所への工賃補填へつながり、みくすはあつで74万円ほど、ゆめハウスで26万円ほどの補填を充て、どうにかB型利用者の工賃を維持することができました。またこれにより次の対応に向けた時間でき、新たな準備を進めることができました。変化には時間をかけ、環境面に配慮し、なだらかに進めていければ、新しい事も始めていける、改めて「生きる力」につなげる実践の大切さを痛感しました。

就労継続支援A型事業所の賃金については、雇用調整助成金を令和2年5月と令和3年2月の2回に分け合計21万円ほどの申請で、賃金の維持につなげました。

未だ予断の許さぬ状況が続きますが、可能な限り感染予防の徹底と日常作業とプログラムの工夫をおこないながら、利用者の命と健康、それを支える職員を守るため必要な整備と協議、そして現況に応じた対応を進めていきます。

また、制度面では4月からの報酬改定が検討され、先を見据えた対応に迫られています。年度末まで詳細な改定内容が見えない中、次期事業計画を組み立てる事となりました。結果、施設外就労加算の廃止が大きく影響し、事業計画と合わせ、第二期中期計画も大きく再検討が必要となります。引き続き改定後の実践を検証しながら実態に沿った対応を進めていきます。

このような情勢の中ですが、引き続き法人の理念である「ともにある」を掲げ、目の前の活きた実践を大切にしていきます。

## 2020年度事業報告と2021年度にむけて

ありがとうございます。

2020年度を振り返ると新型コロナウイルスの影響を受け、個々人の生活や事業所の在り方等を見つめ直す機会となりました。

まず利用者については、消毒・手洗い・ソーシャルディスタンス・マスクの着用・黙食等、定着するまで時間がかかりました。マスクの着用が苦手な方に対する支援の工夫、またマスクの着用が苦手な方がおられることについての啓発活動（当事業所の機関誌で取り上げました）も行いました。

以前であれば、会話の時にマスクをとって話していましたが、マスクをとらずに話すことへの変化は、私達にとって容易ではありませんでした。

緊急事態宣言に伴う、社会的不安、孤立化が顕著に見られました。通所できず、連絡がつかなくなる方やお休みが多くなり、以前の「はたらく」からかけ離れてしまった方。個々人の生活リズム・願い・生き方・はたらき方に強く影響を受けました。現在も、生活基盤を立て直す作業を続けています。

事業では、社会福祉士・主事の養成実習やボランティア演習、地域の高校・中学校での講義の機会が少なくなりました。人と繋がる機会が減った分、太く繋がろうと一つ一つの出会いに感謝を持って取り組んできました。

またSDGsの「誰一人とり残さない」を法人理念「ともにある」に重ねて、私達のことを伝えてきました。その中でつながり広がった縁もたくさんあります。

作業では、常設店舗の休業・イベントの中止などに伴い前年度比の2割ほど売り上げが落ち込みました。高校の部活動の停止等で、硬式野球ボールの修繕ボールを預かれないことも、頻繁にありました。

みんなの当たり前の「はたらき」ができるように、社会的な状況の予測をたてながら作業の確保に努めました。

2021年度は、作業収入の確保に向けて、現在の作業内容、作業効率の見直し等、また新規作業の獲得等についても推し進めていきます。

多様な働き方についても、より個々人の想いや願いに対応できるように、日々柔軟性を持って取り組んでいきます。

みんなで働く喜びを大事にし、相互理解を深め、受容し認めあい、尊敬しあえる職場を目指し、邁進していきます。

## かんしゃ工房（就労継続支援B型）

### 内容

受注作業のエコボールでは、春頃から新型コロナウイルスによる影響が見られ、各チームとの受け取りや納品に影響が出てきた。しかし、緊急事態宣言が終わり段階的に社会の動きが回復してきている中で、受け取りや納品ができるようになり、以降は比較的通常に近いペースで取り組んでいた。また、作業工程の統一が行われたことによるエコボールの質の安定にもつながった。ほかにも、新たな高校とのつながりも増え、つながりを大切に活動の幅が広がったことで、より仕事に対しての責任感・充実感を得ることができた。

自主製品では、景品として組み紐プレスレット・つながり鉛筆・マグネットなどを受注し、納品することができた。また、それぞれの好きな色を考えながら作成した製品が納品されることで、より日々の取り組みに意欲や活力を感じとることができた。

施設外就労での宇治市内の公園清掃業務では、地域の中でそれぞれ自分らしさを活かしながら誰もが取り組みやすい仕事のひとつとして定着していた。

SDGs バッジ（やすりがけ・金具付け・梱包）作業は、今年度より新たな作業として取り組み始めたもの。利用者それぞれの得意なことを意識しながら作業工程を分けることで集中し、丁寧な作業を行うことができた。

ほかにも、地域でのつながりのなかで畑作業やローソンでの清掃作業を頂き、信頼関係の構築・つながりの拡大にもつながった。

地域での活動を通して、相互理解や仕事意識の向上、楽しくみんなの仕事に取りくむことを意識して日々活動を行えた。

### 作業実績

- ・エコボール納品数：東宇治高校20球/乙訓高校303球/豊中ボーイズ164球  
京田辺ボーイズ80球/大阪商業大学堺高校650球/東山高校588球 計1,805球
- ・SDGs 作業納品数：やすりがけ9,761個/金具付け・梱包586個/コースター978個  
※ やすがけ1個8円/金具付け・梱包1個21円
- ・自主製品納品（啓発・景品）：マグネット70個/組みひも1,130本  
つながりえんぴつ1,030本/その他出店販売など
- ・ローソン清掃作業・除草作業：毎月除草作業や配管洗浄・グリストラップの洗浄。
- ・マンション清掃：今年度は例年通り6月と11月の2回実施。  
機械を新たに導入し、作業の質が向上した。
- ・畑作業：小倉地域の畑で今年度はスナップエンドウや玉ねぎの収穫ができた。  
人とのつながりを大切にしながら次年度へ向けて土地を改良中。
- ・ポストイング：毎月ひだまりハウスさんより委託を受け小倉地域へポストイング。  
※ 1件3円/2,000枚/月 配布。
- ・ローソン実習：利用者の心身の状態に応じて、その都度調整しながら実施した。
- ・個人宅清掃：依頼を受け除草作業・ゴミの整理などを行った。

## うじ・はんどめいどショップ（就労継続支援B型）

### 内容

今年度は、新型コロナウイルスの影響による観光客、地域の方の人通りの減少があった。各出店販売の中止、その中でも宇治橋商店街で開催のあがた祭の中止は、収益の大きな痛手となった。

4月の緊急事態宣言により、ショップでは約1か月臨時休業となる。全体的に売上減少の一年だった。一方で、マスクの需要が高まったこと、新聞で紹介されたことが幸いし、地域の方の手作り布マスクがよく売れた。改めて、人々が求めている商品を提供する重要性を再認識した。昨年度から取り組んでいる「SDGs（持続可能な開発目標）バッジ」の販売では、今年度48個販売できた。SDGsに取り組んでいる企業様より購入していただく機会もあった。

- ・ショップ利用者 4名（月：3名・火～金：各2名・土：1名）
- ・体験（利用者） 2名
- ・体験（実習生） 3名
- ・社会福祉士養成学生 5名

### 作業実績

- ・ショップマニュアルの作成  
利用者と職員が協力して一緒に作業についての共有に取り組んだ。
- ・衛生管理法改正に基づき、衛生管理計画を作成  
日々の記録、店内・トイレ等清掃の重要性確認、実施。
- ・臨時休業期間における在庫整理の取り組み  
お客様の減少（コロナ禍）について、お店としての対応を、利用者、職員ともに話し合い、店内のレイアウト変更を実施。『商品が見やすくなった』との声を頂けた。
- ・多様性のある働き方  
利用者一人ひとりの「働きたい」という想いに耳を傾け、日々の中で個別に実践した。
- ・個別支援計画に沿ってショップ体験に来た利用者や、支援学校からの体験実習生、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習生の受け入れを実施。一緒に取り組む事で、良い刺激となり、お互いを認め合い助け合うことで、ともに働くことを実践できた。

### 売上平均

- ・はんどめいど商品（仕入れ商品） 28,342円/月平均
- ・つながり商品（地域の方の手作り商品） 33,462円/月平均
- ・自主製品（マグネット・えんぴつ・くみひも等） 13個/月平均

※《年間売上集計表等 別紙資料参照》

うじ・はんどめいどショップ

売り上げ比較表2019年度・2020年度

2019年度	売上金額合計	2020年度	売上金額合計	売上増減
4月	341,258	4月	177,140	-164,118
5月	291,023	5月	31,060	-259,963
6月	360,557	6月	133,030	-227,527
7月	201,892	7月	136,160	-65,732
8月	243,370	8月	97,755	-145,615
9月	166,122	9月	104,505	-61,617
10月	288,902	10月	153,485	-135,417
11月	442,670	11月	138,780	-303,890
12月	189,349	12月	76,395	-112,954
1月	86,910	1月	59,060	-27,850
2月	97,890	2月	76,601	-21,289
3月	237,159	3月	79,135	-158,024
合計	2,947,102	合計	1,263,106	-1,683,996

## 企業内実習 株式会社ホームケルン（就労継続支援B型）

### 内容

ホームケルン株式会社は社会環境を考え、石炭やコークスの代替燃料であるRPFを製造している会社である。

【SDGs（持続可能な開発目標）に積極的に取り組まれている】

その企業内工場（2階のベルトコンベアー作業室）で、企業資源廃棄物（資源物）の再生処理における仕分け作業（紙・ひも・ビニール袋・銅線・ねじ・鉄等）の一部を担った。

基本的な内容は企業の職員から指示をいただき、利用者への作業指導はみつくすはあつ職員が行い、現地までの送迎及び、仕分け作業を一緒に取り組んだ。

作業収入はすべて、利用者の工賃に還元している。

### 利用者

4名体制/日

通所時間 8時00分～16時45分（移動時間含む）

通所曜日 月・火・水・木・金（祝日休み）

### 作業時間

9時00分～16時00分（ホームケルン企業内作業）

### 作業実績

- 作業収入実績 4,760,000円/年（238日間の稼働）
- 「施設外就労」で取り組んだ。  
安全な作業環境を確保する為に利用者同士で声の掛け合いを徹底し、チームとして協力し、作業に取り組むことができた。
- チームとして取り組む利用者間の人間関係の変化についても、その都度ミーティングを行い、コミュニケーションを通して対応することができた。
- 利用者以外にも、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習（体験機会の場として）にも有効活用できた。
- コロナ禍で稼働を続けるにあたり、換気や密にならないように人との距離を確保、手指消毒の徹底、食事時の黙食等に取り組み、感染の予防に努めた。

## 啓発（就労継続支援B型）

### 内容

今年度は新型コロナウイルスの影響の為、活動をしていくうえで様々な制約を受けることになった。そのような環境の中でも前向きに取り組んできた。

就労ネットうじ法人10周年記念で取り組んだ絵本を、ゆめハウス及びみっくすはあつの利用者、職員で宇治市内の小学校22校に訪問配布した。

また、地域の事業所と一緒に大きな要望をする国会請願署名にも積極的に参加し、署名活動に取り組んだ。街の中での署名活動は取り組めなかったが、個々で署名を集める活動は出来た。

### 作業実績

- ・機関誌「みっくす!! ミックス!!」の発行 → 年2回、計900部
- ・便り「みっくす・ケルンワークス」&「うじ・はんどめいどショップNEWS」の発行  
→ 年5回、計7,075部
- ・ホームページやブログでのSNS情報発信 → 毎月更新
- ・エコボールを通じた活動では、ボールの受取りや納品時に野球部員との交流を実施  
→ 練習見学、記念写真、お礼色紙の交換
- ・資格取得実習生の受け入れ → 5名（24日間・1名、12日間・2名、8日間・2名）
- ・国会請願署名 → 487筆
- ・地域の中学校、高校、企画等への講師派遣は新型コロナウイルスの影響の為、実施できなかった。

### 支援者実習

- ・今年度も実習委員会を組織し、実習日誌のコメント記入に現場の職員が関わるなど実習受け入れに関しての共有に取り組んだ。
- ・コロナ禍に於いて、大阪歯科大学よりリモートによる社会福祉士実習の講義依頼があり、新たなつながりとして実施できた。
- ・社会福祉士等の資格実習の学生受け入れについて、長期間一緒に取り組んだ実習生は、非常に深くかかわる機会があり、考えて、感じ取る内容が濃かったとの感想をもらっている。  
また、それぞれの家族、友人、学校、地域へと持ち帰り啓発活動にもつながったと振り返る。  
実習生の受け入れも長期間一緒に過ごせば過ごすほどかけがえのない時間となり、利用者、実習生、職員、それぞれお互いに学び合って成長する良い機会になっている。
- ・ボランティア体験や福祉体験などの取り組みも継続して実施した。障害のある人と関わることが初めての人もいたが、体験を通して障害のある人に対する親しみを感じてもらえたと思われる。  
また、継続してボランティアとして一緒に作業参加して頂いたり、つながりを持っていることは非常に嬉しいことである。



## 2020年度事業報告と2021年度にむけて

ありがとうございます。

2020年度は新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」からはじまり、年度を通しその感染予防の対応に追われました。

利用者とその家族、そして職員の安全を第一優先とし、感染予防に努めるとともに、行政を交えながらの相談や必要な衛生管理に係わる助成金、また工賃維持のため京都府独自の工賃補填への動きと合わせて、A型事業所では、2回にわたり雇用調整助成金の申請も進めてきました。

またこのような情勢でも、大切にする一人ひとりの働きを社会の中に具体化する実践として「多様な働き方を目指す」とした位置づけは継続しました。

その結果、上半期は感染予防への対応と今後の方向性の確認のため、相談と検討の時間を重ねながらも工賃の柱の1つでもあった販売や飲食、製菓などがほぼ停止し、4月同月比では90%減の状況に愕然としました。また2年ほどかけてつないできた食品関連の施設外就労も今後の相談継続は残しつつも実質的に中断となりました。

このような中、B型の工賃では京都府工賃補填の動きは大きなプラス材料となり、そこで今後の展開を考える時間を頂けました。当初の見込みでは140万円ほどのマイナスでしたが、結果26万円ほどに抑えることができた事は、次年度につながる大きな糸口となりました。具体的な対応としては、作業種目のウエイトでマイナス部門の稼働を抑え、清掃部門へ若干比重を移し、その動きから新たな企業・団体とのやり取りが始まり2021年4月からの新規業務の開始、そして工賃アップも見込める事となりました。引き続き「一人ひとりの多様な働き方と工賃向上を目指す」とし、個別性を大切に、異業種含めながら広く接点を持ち進めていきます。

またA型事業では、継続課題でもあった独自の業務評価基準をつくり、個別のモニタリングを通しながら、利用者への説明と相談を繰り返し進めました。留意する事は、個別的に「できる・できない」の作業遂行能力ではなく、今まで大切にしてきた、チームでの働きと、働く姿勢に着目した基準としています。2021年4月より実質的に運用を開始する事とし、結果、賃金も平均22%のアップを見込んでいます。引き続き2021年度も「多様な働き方と最低賃金の確保」を柱とし展開してきます。

作業以外のプログラムでは自治活動の「ゆめ会議」を通し、可能な事を形式を変えながら取り組みを進めてきました。また10周年記念事業で制作した絵本を宇治市立22校に訪問し寄贈できたことは、今後につながる大きな実績です。

また、例年盛り上がる日帰り旅行ではコロナの状況を鑑み、2020年2月に先行し今期分として「ナガシマスパーランド」に行き、共通の時間を過ごせた事はとてもいい思い出となりました。2021年度も可能になるような工夫をしながら作業以外の多様な時間をもちたいと思います。

引き続き「ともにある」の理念を掲げ、多様な視点と相互作用を活用し、目の前の実践を大切に駆け抜けていきます。

## くりーんねっと（就労継続支援A型）

### （ 全体 ）

日々の作業内容、作業姿勢にいたるまで質の向上を図り、安定したリズムで作業に取り組む事ができました。

日々の積み重ねにより、身につけた技術をもとに清掃の日常的なスキルアップを目的とした取り組みとして、定着してきた土曜日の単独の清掃業務（1名）での施設外支援にも継続して取り組むことができました。

利用者がチーム、集団としての意識を高めるため利用者同士の意見等の話し合いの場（ミーティング）を定期的に設け、多様な働き方を軸に置き、チーム作りや働く姿勢等個人のスキルアップとチームワークの向上、積極性や自主性、意欲的な働きを身につけるように心がけました。また、緊急事態宣言中も、業務を縮小しながらも毎日継続して取り組むことができました。

特別清掃の幅が広がったことで、新しい環境で作業に取り組むことの大切を学ぶのと同時に、「賃金の向上を目指す」という目標を持ってさらなるステップアップを図ることに繋がりました。

また、週20時間以上の勤務を維持し、雇用者としての自覚を持って日々の業務に取り組むことを目指し、個別支援計画をもとに進めています。

また今後も課題として、最低賃金の増加に伴った賃金支払いのバランスの確保が挙げられます。

変動していく最低賃金の額に適応した賃金支払いに近づけていく事とあわせ、個別支援計画やモニタリングにおける本人との相談を通し、「多様な働き方」を継続し目指していきます。合わせて、独自の評価基準をつくり、次年度より運用予定です。

### （ 利用者 ）

A型利用者数 7名（2021.3.31現在）

A型利用者1名 B型へ移行（2021年4月より週3日ほどのA実習）

特別清掃時、専門機器を扱う利用者の増加。

基本通所時間 10時～16時

労働時間 週20時間以上30時間未満

通所人数 1日 4～5名

### （ 作業場所 ）

- ・産業振興センター 全館清掃（日常清掃・特別清掃）
- ・宇治公園橋島公共便所清掃
- ・東宇治地域福祉センター（日常清掃・特別清掃）
- ・円蔵院
- ・サクラハイツ
- ・福祉会館浴室清掃
- ・ライオンズマンション宇治第2（日常清掃・特別清掃）
- ・伊勢田地区公園除草作業（5ヶ所）
- ・小倉明星園デイサービスセンター（日常清掃・特別清掃）
- ・大山医院（日常清掃・特別清掃）
- ・その他 特別清掃依頼に対応（年間1～2回）

## ゆめハウス（就労継続支援 B 型）

### （ 全体 ）

新型コロナウイルスによる影響もあり、予定通りに物事を進められない場面も多くありました。緊急事態宣言により在宅利用という選択肢をとられる方もおられ、その中でバランスをとりながら活動をしてきました。

自治組織である「ゆめ会議」は月1度のペースで定期的に行っていますが、密になることもあり、前年度までのように活動はできませんでした。日帰り旅行を前年度に2度行ったので、それに代わる規模を縮小した企画を考えておりましたが、全体で動くことが難しかったため、楽しむ行事としてはクリスマス会を縮小した形で行ったのが唯一でした。新年会は安全を考え、今までのようなみくくすはあつと合同ではなく事業所単位での準備をしていましたが、直前になって中止をせざるを得ない状況になりました。

清掃では前年度から通常清掃は引き続き実施し、加えて地元企業（清掃会社）との連携ができ宇治市の施設（西宇治公園プール清掃）の清掃を行うことができました。また同じ福祉施設とのつながりで中庭清掃に入らせていただくこともできました。

また施設外実習ではCocoキ番屋で開店の準備、厨房作業など体験を重ねることができ、利用者本人にとって大きな自信につながっています。

朱雀ロータリークラブ様より寄付をいただき、販売や清掃等で着用できる B 型利用者用のユニフォームを作成しました。ユニフォームを着ることで、意識の変化があり仕事に対するモチベーションの向上がみられました。

10周年記念事業の中で啓発を目的とした絵本『トビウオくん わかんない』（法人理念を主とした内容）を宇治市内小学校22校にみくくすはあつと分担して訪問し、贈呈をさせていただきました。うち1校では1年生を対象とした道徳の授業として絵本を活用していただき、みくくすはあつの利用者、職員も一緒に参加し、自分たちの仕事や活動を紹介し、交流をすることができました。

2021年度も状況として制限される場面は多くなるとは思いますが、前年度の経験も活かしがら、前向きな展開をしていきたいと思えます。

### （ 利用者 ）

B型利用者数 30名（2021.3.31現在）

A型実習体験者数 5名

施設外支援 3名

基本通所時間 10時～16時

通所人数 （月～金）15～18名/日 （土）3～5名/日

### （ 作業内容 ）

- ・ゆめカフェ（毎週金曜日）
- ・工房
- ・出張喫茶（物品販売）＊出店販売年間 105回
- ・通常清掃 4ヶ所+A実習2ヶ所  
（服部医院、森田ビル、宇治市役所除草、米坂墓地、  
【A実習】宇治市総合福祉会館、宇治公園橋島公共便所清掃）

- 特別清掃 2か所  
（天ヶ瀬苑中庭清掃、西宇治公園プール清掃）
- リサイクル（古紙、プルトップの回収、販売）
- 下請け（昇苑くみひも…パッケージ、田辺染工…着物解体）
- 製菓
- 啓発（宇治市小学校講演）
- 企業実習

## エコボール（硬式野球ボールの修繕）

### （ 協力学校・チーム ）

- ・大阪産業大学
- ・奈良県立香芝高校
- ・高槻リトルリーグ
- ・岐阜中濃ボーイズ
- ・寝屋川中央リトルシニア
- ・春日井ボーイズ
- ・大阪学院大学高校
- ・高槻オールブラックス

### （ 年間修繕数 ）

837球 （※皮張替え925球）

### （ 評価 ）

2020年度は新規で3チーム・学校との繋がりを持つことができました。コロナ禍で交流の場を持つことが難しい中ではありましたが、選手に障害者事業所の現状をお話しさせていただき、それをSNSで紹介してくださったり、選手が道具を大切にしようという思いをつづった手紙をいただいたり、相互に良い作用が生まれています。

全国集会は2月に予定されていましたが、新型コロナウイルスの状況もあり、2020年度は中止となりました。エコボール事業が全国に拡大しつつあり、様々な形で事業が行われている状況になってきました。一定の会則を設け、それに則る形で事業を今後も継続展開していく方向となりました。皮張替えは別事業という形にはなりませんが、今まで通り他事業所とも連携をとりながら、硬式ボール修繕を通して社会に発信をしていきたいと思えます。

## 工房（自主製品）

### さをり製品

- ・シヨール（京都府敬老祝い品）42枚納品
- ・染め和紙織り（念珠入れ・通帳入れ・名刺入れ・ティッシュケース・コースター）  
（コースター）
- ・発注元 いたるセンター（ほっとはあとセンターより）300枚
- ・宇治市人権啓発物品 300枚
- ・宇治市障害者週間記念品 62枚
- ・京都府身体障害者団体連合会から啓発物品 400枚

ぶらり嵐山、うじ・はんどめいどショップ、各種出店等で販売

### 刺し子製品

- （ふきん）
- ・中山東町内会 110枚
- ・宇治市（環境企画課、健康生きがい課） 200枚
- （ハンカチ）
- ・キョーシンオート 50枚
- ・ゆめハウスより年末御礼品として 140枚
- （小ハンカチ）
- ・宇治市（人権啓発課） 200枚
- （手ぬぐい）
- ・天ヶ瀬苑 40枚

うじ・はんどめいどショップ、各種出店で販売

### 染め和紙製品

- （ティッシュケース）
- ・京都府山城広域振興局より 2900個
- ・伊勢田学区福祉委員会 100個
- （ミニうちわ）
- ・宇治市（人権啓発課）500個

### その他

- 箱編み製品（マフラー・帽子・ネックウォーマー・レッグウォーマー）
- 手編み製品（座布団・アクリルたわし・ペットボトルカバー）

ソックラビット NaNairo ストラップ ポチ袋  
クリスマスリース・クリスマスツリー

( 評価 )

新型コロナウイルスによる販売機会の減少、それに伴う売り上げ減が見込まれ、利用者工賃にも影響が及ぶこともあり、宇治市による自主製品の一括購入がありました。

新しい自主製品の作成にも取り組み、季節の商品としてクリスマス関連の商品、また地元企業等との連携も生まれ、手ぬぐい作成、い草を使用したマスクケースやブックカバーの作成にも取り組みました。

次年度に向けては、和紙だけでなく毛糸等を使用したさをり製品や季節商品の作成など、多様な製品づくりに取り組んでいきたいと思えます。

## ゆめカフェ

( 実施曜日 ) 毎週金曜日 (月4～5回)

( 実施時間 ) 11:30～14:00

( 利用者 ) 5名ほど

- 1日およそ30食程度の食数が出ます。
- 2012年からはじめて9年目になります。
- 宇治支援学校より実習受け入れ(1名)

( 評価 )

- 年度初めから、緊急事態宣言が発令され宣言2回ともゆめカフェをお休みさせて頂きました。ゆめカフェもやっと軌道に乗ってきた矢先に新型コロナウイルスの対応でなかなか思うように開店できず、作業の縛りもあり、難航した1年でした。  
感染予防対策として、アルコール消毒設置、検温、仕切りアクリル板設置、お客様の入店人数制限、(スタッフ・利用者)の健康チェック、テイクアウトの強化を実施してまいりました。  
開店準備の工程が増え、準備作業も最初の方はスムーズに進まなかったが、1年かけ、今では段取よく開店作業に取り組むことができるようになりました。
- また2018年6月から「食品衛生法」の改正案が可決され、2020年6月から食品を扱う全事業者に対して HACCP による衛生管理の義務化が開始しました。2020年の法律施行から1年間は猶予期間として設けられ、2021年6月から HACCP 導入運用が完全義務化となります。それに伴い2020年度から習慣づける為、衛生管理表など作成し毎日記録チェックをし、スタッフ誰もが、記入作成できるように意識づけてきました。  
2021年6月から完全義務化されるにあたり、スムーズにスタートできるように準備し実行する1年でした。



## 製菓・出張喫茶(一部物品を含む)

- 心身障害者福祉センター（京都府社会福祉事業団）  
定例出店 毎月最終火曜日 8回(新型コロナウイルスの為回数が減っています)
- 介護教室(宇治市小倉明星園)新型コロナウイルスの為販売はありませんでした。
- 宇治市市役所 販売年間13回  
(京都府振興局販売は新型コロナウイルスの為ありませんでした)  
二事業所からの依頼によりお菓子の委託販売
- オープンカフェ 年間5回
- 生涯学習センター販売 水・土 年間79回
- その他 植物公園販売、うじ・はんどめいどフェア（アルプラザ宇治東）

### ( 評価 )

今年度は新型コロナウイルスの為、販売がほぼなくなりました。それに伴い、お菓子を作る機会が少なくなり、利用者に製菓を定着することが困難になりました。

しかし、改めて衛生面の事や手洗い、消毒を入念にすることを再確認できた年でもありました。

また、2021年6月より義務化されるHACCPの記録化など、職員間で話し合い、確認しながら進めていきたいと思っております。

従事する利用者も少なかったので、後半から利用者を1、2名増やし、チームで協力しながら、個々のできることから少しずつ進めていくことができました。

## 株式会社 オーテック（施設外就労）

（ 実施曜日 ） 月・木・金曜日

（ 実施時間 ） 13：30～15：30

（ 利用者 ）

A型 2名

B型 3名（A実習）

（1日3～4名）

（ 業務内容 ）

食品パック詰め

具体的には、千切り大根、南瓜の煮物を規定数量を計り、ふたを閉める

（ 評価 ）

2年目の施設外就労先になります。

常時利用者3名から4名職員1名で業務を行っています。

2時間の作業で平均的に、700パックはパック詰めできるようになり、多いときは800パックを超える日も何度かありました。

昨年同様、視覚支援として規定数量を記した物の提示をし、新たに出来上がりパックの置き方の写真などの用意し、利用者がわかりやすく作業をしやすい環境づくりを工夫しました。また夏の御中元の繁忙期には、スペースの確保が難しいため1か月ほど施設外就労ができませんでした。年末の繁忙期には、別の特別作業としてお餅の袋詰め、おせちに詰める田作り、クルミなどの計り作業を施設外就労先の従業員とともに作業することができましたことは、業務幅を広げていく大きな成果となりました。

通常は、従業員と別ライン（ゆめハウスのチームのみ）で作業をしているため、利用者の作業導入としても、安心して取り組んでいます。

コロナ禍で先方の都合により企業内実習を行うことが厳しい環境になり、2021年1月からの動きは現在止まっています。引き続き相談をしながら進めて行きます。